

浜坂地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成29年11月10日（金） 19:00～20:10

2 会 場 浜坂地区公民館

3 出席者 地元出席者 22名

市側出席者 14名

深澤市長、尾室教育長、河井総務部長、田中中核市推進局長、乾防災調整監、田中企画推進部長、久野地域振興局長、綱田都市整備部長、漆原鳥取砂丘・ジオパーク推進課長、渡邊秘書課長

<事務局>福島協働推進課長（司会）、宮崎協働推進課課長補佐、有本協働推進課主事、北村協働推進課主事

4 地域の重要課題について

1 融雪装置の水源確保について

<地域課題>

浜坂団地内のバス通りにある融雪装置の水源としてポンプが整備されているが、必要水量の半分程度しか確保できていないと聞いている。残りの必要水量をどのように確保する予定か。例えば、ポンプ施設の側にある「鳥取大学乾燥地研究センター」の貯水プールからは常に水が溢れ出ているので、その水を利用することはできないか。

<担当部局の所見等>

【都市整備部】

新たな水源を確保するため、平成27年度から3か所のボーリング調査を行いました。いずれも消雪に必要な水量を確保することができませんでした。

設備の老朽化により取水量が低下していた第1水源地の井戸については、今年度井戸を新設したことで一定の取水が可能となり、今年の冬から使用する予定ですが、水量不足により消雪装置が稼働できない区間については、機械除雪により対応することとしています。

なお、鳥取大学乾燥地研究センターの貯水プールの水については、センター内の灌水に利用されているため常時利用できるものではなく、水量も少ないことから、水源として利用することは困難とのことでした。

（都市整備部長）

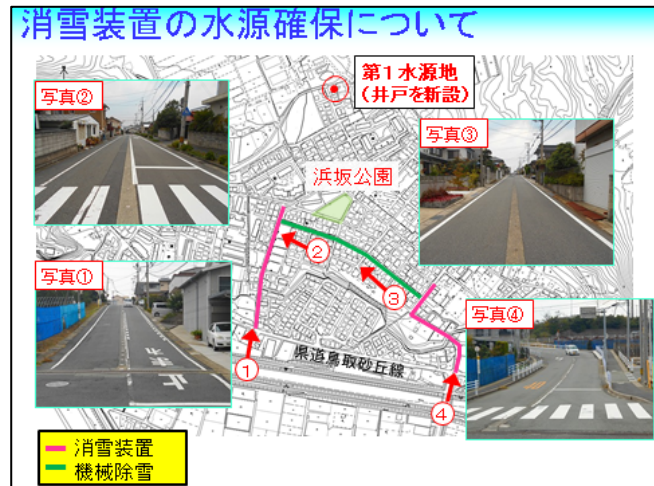
浜坂団地内の消雪装置については、以前は浜坂公園内と、第1水源地の2か所に水源がありましたが、浜坂公園内の設備の破損により、現在は第1水源地1か所で運用しています。

第1水源地だけでは消雪装置に必要な水量が賅えないことから、新たな水源を確保するため、平成27年度以降、もともと水源があった浜坂公園と、鳥取大学乾燥地研究センター近く、第1水源地の3か所について、ボーリング調査を実施しました。しかし、いずれも消雪に必要な水量を十分確保することができないとの結果が出ました。これを受け、設

備の老朽化による故障やスクリーンの目詰まり等によって取水量が低下していた第1水源地の井戸について、安定した取水が可能となるよう新しい井戸を掘り直しました。必要な量全てとまではいきませんが、今年の冬から新しい井戸を使って消雪を行っていきたいと考えています。

水量不足には変わりありませんので、消雪装置が稼働できない区間も出てきます。それらの区間については機械除雪で対応したいと考えています。具体的には、図のピンク色の路線は消雪装置を使用し、緑の路線は機械除雪を実施します。今年は、ピンクの路線に優先的に水を流して消雪した後、通行に支障がないことが確認できれば、続けて緑の路線も消雪装置で水を流すという運用をしていきたいと考えています。

なお、鳥取大学乾燥地研究センター貯水プールの水を利用することについて大学に確認しましたが、貯水プールの水はセンター内の灌水に利用されているため常時利用できるものではないこと、水量も少ないことから、消雪装置の水源としての利用は困難とのことでした。



2 「旧砂丘荘」及び「旧青年の家」跡地の活用策について

<地域課題>

「旧砂丘荘」及び「旧青年の家」跡地が更地のままの状態になっているが、今後どのような整備計画になっているか。

近くにある柳茶屋キャンプ場は近年賑わいを見せていることから、例えば「オートキャンプ場」や「バンガロー」等の滞在型施設の整備を検討してはどうか。なるべく、維持管理費の少ない施設が望ましいと考える。

<担当部局の所見等>

【経済観光部】

鳥取砂丘西側エリアには歴史、文芸、環境学習的資源が数多く集積しており、平成22年11月策定の「鳥取砂丘ランドデザイン」では、砂丘の楽しさを体験しながら学ぶ場として活用の方向性が示されています。

なお、環境省が推進する「鳥取砂丘ビジターセンター」の基本計画において、平成30年秋に砂丘東側にビジターセンターをオープンする予定にしています。その後、時期は未定ですが、砂丘西側のビジターセンターもオープン予定であり、景観や静かな環境を生かし、砂丘西側をより深く知るための施設として整備する方針が出されているところです。

旧砂丘荘や旧青年の家跡地の具体的な整備計画はありませんが、砂丘西側のビジターセンターの整備に併せて、市の施設である柳茶屋キャンプ場やサイクリングターミナルを一体的に活用するような西側エリアの振興を図りたいと考えています。

(鳥取砂丘・ジオパーク推進課長)

鳥取砂丘西側エリアには、歴史、文芸、環境学習的資源が数多く集積されています。平成22年11月に鳥取砂丘再生会議が作成した「鳥取砂丘ランドデザイン」の基本計画では、西側エリアを「砂丘の楽しさを経験しながら学ぶ場」として活用するとの方向性が示されており、砂丘の楽しさを経験しながら歴史、文芸、環境を学ぶ取り組みを進めたり、学校教育機関と連携して砂丘を楽しむ機会や場を提供するなど、砂丘との関わりを深める取り組みを進めています。併せて、「鳥取砂丘ランドデザイン」では、砂の動く砂丘や眺望景観の観点から、飛砂防備保安林の在り方や活用策について検討することとしています。

また、砂丘東側エリア、特別保護地区の中央エリア内に鳥取市が保有する駐車場がありますが、環境省が推進する「鳥取砂丘ビジターセンター」の基本計画において、ここに、平成30年秋に鳥取砂丘ビジターセンターをオープンする予定です。この東側エリアのビジターセンターの完成後には、時期は未定ですが、西側エリアにもビジターセンターのオープンを予定しています。西側のビジターセンターは、景観や静かな環境を生かし、砂丘西側エリアをより深く知るための施設として整備する方針が出されています。

旧砂丘荘や旧青年の家跡地についての具体的な整備計画はありませんが、砂丘西側のビジターセンターの整備に併せ、現在、柳茶屋キャンプ場やサイクリングターミナルを含めた西側エリアを一体的に活用するような振興策を考えているところです。なお、旧砂丘荘や旧青年の家周辺エリアは、自然公園法に定める第2種特別地域に指定されており、オートキャンプ場やバンガロー等の施設を整備することは可能ではありますが、事前に環境省と協議する必要があると聞いています。

(地元意見)

旧砂丘荘と旧青年の家以外にも、鳥取ゴルフ倶楽部を上がった所に「砂丘パレス」という民間施設がありますが、ずっと長い間手つかずになっています。3階建てですが、老朽化していて非常に危険な状況です。鳥取市から所有者に対して対応を要請することはできないでしょうか。

(鳥取砂丘・ジオパーク推進課長)

「砂丘パレス」は砂丘会館の所有ですので、今後の活用策について協議し、売却の意図等についても確認していきたいと思います。

なお、本日は鳥取砂丘・ジオパーク推進課が説明させていただきましたが、本地域課題の鳥取市の所管は、観光戦略課です。

3 浜坂小学校体育館の改築について

<地域課題>

平成27年7月27日付で鳥取市立浜坂小学校体育館の建て替えについて要望を出したところ、「体育館の状況は確認しており、増改築が必要な建物と認識している。今後、体育館建設の計画に当たっては、校舎との取り合いやグラウンドの確保、及び将来の見通しを踏まえたうえで検討を進めたい」との回答だった。その上で、現在進められている計画を

示してほしい。

<担当部局の所見等>

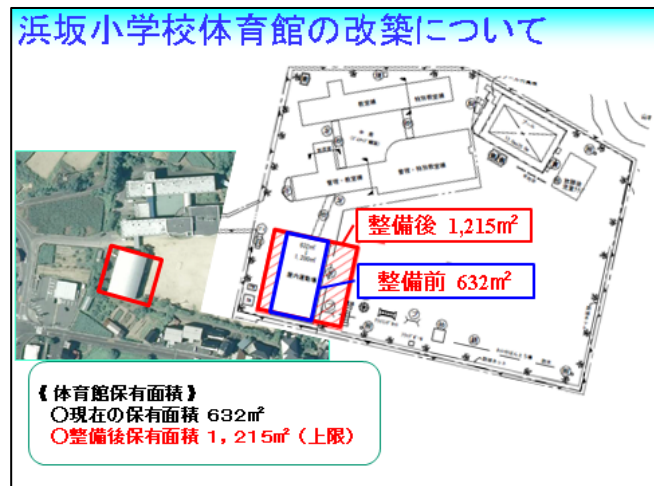
【教育委員会】

浜坂小学校は、今後児童数の増加が見込まれており、児童数の増加に対し適切な規模の体育館整備が必要と考えています。

体育館の建て替え場所は、文部科学省の設置基準を踏まえて体育館・校庭面積を考慮し、現在地での整備を計画しています。

(教育長)

浜坂小学校体育館は現在の保有面積が大変狭いですが、今後、児童数の増加が見込まれていることから、適切な規模の体育館整備が必要と考えています。建て替え場所等については現在検討中であり、具体的にどのような形になるかまだお示しできませんが、現在地での整備を計画しています。



(地元意見)

体育館西側に来校者が駐車できる駐車場がありますが、数が少なく、いっぱい時にはグラウンドに駐車しています。しかし、グラウンドに進入するには体育館への渡り廊下を横切るほかに経路がなく、児童にとって危険です。体育館は災害時の避難所にも指定されていますが、進入路が、狭い上にカーブ途中にあることから、砂丘方面に行く一般車両と重なり、周辺地域に渋滞を起こす可能性が大いにあります。実際に、小学校の発表会当日に中央病院の方まで渋滞ができてしまったこともあります。

昨年10月21日に鳥取県中部地震が発生した際には、鳥取市の学校で午後3時30分に一斉引き渡しとなりましたが、浜坂近辺の道路は、迎いの車両が引き起こした渋滞によって大混乱になりました。

今後体育館の工事が始まると、児童が登校する道路を工事車両が進入してくることにになり、児童の安全が確保できないのではないかと懸念しています。

現時点で現在地に建設予定とのことですが、これらを踏まえると、現在地への建て替えには様々な問題が出てくると思います。いくつか候補を挙げて検討してほしいです。

浜坂地区はずっと体育館建設を待っていました。我々地域の意見にも一度耳を貸していただき、地域の人々が「建って良かった」と思える体育館にしてほしいです。

(教育長)

体育館の建て替えの話と、進入路が狭く駐車場もないという話は、現時点では別の話として考えていただきたいと思います。体育館が老朽化している上、手狭になっていることから建て替えを計画しているものです。まだ計画段階ですので、ある程度計画ができれば、

学校を始めとした地域の皆様にお示ししてご意見を伺うことになると思います。

進入路が狭い、あるいは駐車場がないといったご意見もありましたが、教育委員会としても課題として十分認識していますので、今後、併せて検討していきたいと思っています。

同じ位置に建て替えることになれば、児童や教職員、また送迎の保護者の皆様の安全の確保が第一優先になります。そのあたりを十分配慮した計画にしていきたいと思っています。

(地元意見)

登校してくる児童は、渡り廊下をくぐって児童玄関までやって来ます。それと併せて、遅れた児童などを送って来た保護者の車両も、体育館西側の駐車場がいっぱいだからとグラウンドに入って来ます。車両が1台しか通れない渡り廊下に車両と児童が入ってくるため、本当に児童の安全が問われている状態です。また、放課後児童クラブが始まる前には、グラウンドに職員の車両が入って来ます。休憩で児童が遊びたい時に入って来るため、非常に危険です。児童は元気がよく、走って出てくるのです。安全確保を第一に検討してほしいです。

昨年の鳥取県中部地震の引き渡しの際には、体育館の場所や渡り廊下の位置を、学校や地区、市にも相談しました。本当に引き渡しが大変でした。あその後ずっと余震が続いていたら引き渡しができただろうか、と思うこともあります。

(教育長)

駐車場の確保や、児童の安全の確保についてももしっかり検討し、皆様にお示ししたいと考えています。

(地元意見)

個人的には、体育館をもう少し移動して駐車場を増やし、車両がグラウンドの中に入らなくても駐車できるよう検討してほしいです。

関連しますが、浜坂小学校の児童数は将来もう少し増えると思います。浜坂五丁目には造成の計画もあります。校舎は現状でもいっぱいなので、喫緊の課題として校舎の増築も必要ではないかと思っています。今後、1学年4クラスが標準になるかもしれません。すると、大変な児童数になります。現時点で校舎の増築については全く考えていないのか、それとも将来的に考えてもらえるのか聞きたいです。

(教育長)

浜坂小学校の児童数は現在約560人で、たしかに増加しています。宅地造成を考慮せず現時点の住民基本台帳上でみると、浜坂小学校区内の未就学児がこのまま浜坂小学校に通うと推計した場合、ピーク時の児童数は約630人になると見込んでいます。ただ、これは一時的なものようで、その後は再び減少が見込まれています。造成の計画があるとのことでしたが、今後、新たな団地の造成や転入等により子どもの増加が見込まれる場合には、校舎の増改築も検討する必要があると思います。

推移をもう少し見極めたいと思いますが、現時点では、必ずしも増築が必要だとの判断には至っていません。

(地元意見)

地域課題全てについて一言言います。

消雪装置については、今年の春に道路課が地区で説明を行い、井戸ができるとのことでしたので、期待しています。もし水量が足りない場合には、必ず機械人力でバスが常時通過できるよう配慮をお願いします。

砂丘の西側エリアについては、現在、オートキャンプ場の話が具体的に出てきています。佐治町を越えた所の湖畔にキャンプ場がありますが、あんなものができればと思っています。良い所を参考にして進めてほしいと思います。青年の家は県教育委員会が建設して市に移管されましたが、時代にそぐわないとのことでとうとう閉鎖になり、何年も放置されていました。見るに見兼ねて要望を繰り返した結果、市が解体除去しました。砂丘パレスは、地区として何とかしてほしいと考えています。あの建物を見れば、利活用は考えられません。そのことを分かった上で対応をお願いします。鳥取市は都市計画マスタープランを作成しており、それもよいですが、地区の願いは、具体的な実践です。1つ1つできることから実践してほしいと思います。

浜坂小学校体育館は、教育委員会と地域がともに作り上げていくという方向で検討を進めてほしいです。

(深澤市長)

消雪装置は、平成27年に3か所のボーリング調査を実施した結果、水量が確保できない状況にあるようです。雪の降り方にもよりますが、水量が確保できない場合は機械除雪により通行可能な状況にするよう考えています。本年2月には33年ぶりの大雪が降りました。その経験を踏まえて、市役所内で除雪体制の確認を行い、速やかに対応できるよう改めて体制整備を図ったところです。雪のシーズンになりましたら、迅速的確に対応できるよう取り組んでいきたいと考えています。

砂丘西側エリアの利活用は、従来からの鳥取市の大きな課題です。平成12年には砂丘博物館の構想もありましたが、なくなりました。いよいよ来年、西側と東側それぞれに「砂丘ビジターセンター」が完成します。これを一つの拠点として生かしていくことになると思います。様々な構想が考えられますが、近年は、砂丘でのアクティビティという新たな魅力が加わったと考えていますので、それらの拠点としても大いに活用できるセンターにしていきたいと思っていますし、旧砂丘荘や青年の家跡地の利活用についてもいろいろなアイデアがあると思いますので、鳥取市として、地域の皆様と一緒に活用方策を考え続けていかなければならないと思っています。

浜坂小学校は、現在の児童数564人から、5年後の推計では約630人まで増加するのではないかと推計されています。そうなれば今の教室ではとても足りないと認識していますが、その後どう推移していくのかの見極めも必要だと考えています。しっかりと見極めながら、必要と判断すれば校舎も増築していかなければならないと思いますし、体育館の位置も安全確保を第一に検討していかなければならないと考えています。本日の地域づくり懇談会でいただいたご意見も踏まえ、検討を続けていきたいと思っています。

5 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

地域課題で、災害時の児童の引き渡しについて話がありました。以前、美保地区で水害が発生した時、保護者が美保小学校に迎えに行くのに大渋滞が発生し、行くに行けないということがありました。どこの学校もそういうことがあるのかもしれませんが、たいていの保護者が自動車で迎えに行かれると思います。それで安全に引き渡しができるれば一番よいのですが、もしかすると、学校にいた方がよいのではないかといった声もありました。

そのまま学校にいるという選択肢も、同時に検討した方がよいと思います。その場合は、保護者との連絡を密にすることが重要だと思います。とにかく保護者に引き渡せばよいというのではなく、いろいろな場合に応じて検討をお願いします。

（教育長）

たしかに、昨年の鳥取県中部地震の際の引き渡しでは、かなりの学校が混乱しました。

進入路の狭い学校や駐車場がない学校は市内にたくさんありますので、かなり苦勞したようです。小学校は耐震化が完了しているのも、そこにいる方が安全だとの声もあります。

現在、学校において、子ども達を安全にスムーズに保護者に引き渡せる方策について検討してもらっています。災害が発生し混乱している状況で、すぐに迎えに来ていただくことは現実的にはできませんので、時間的な余裕を見たり、引き渡しまで学校内の安全な場所で待機させるなど、学校と保護者の間で検討していただいているところです。

（地元意見）

浜坂小学校と浜坂地区公民館について、防災の観点から質問します。

このたび、国土交通省が浸水想定区域を見直しました。千年に一度の洪水で、浜坂体育館は水没します。地区公民館の少し下までは水が浸かりますが、浜坂地区公民館と浜坂小学校は残ります。千年に一度の想定ですが、東日本大震災も千年に一度と言われています。確実にくるわけですから、その時には浜坂小学校と浜坂地区公民館を最大限活用して地域の皆さんの命を守らなければいけません。この2施設を防災施設としても捉え、例えば浜坂小学校に迂回路を整備したり、入る道路と出る道路を整備して循環できるようにするなど、何らかの対策をお願いします。

県立中央病院は現在建て替えを行っています。通常は地下を造りますが、水害の際には水がくるという前提の下、地下は造られません。県はそこまで考えていますので、市もぜひ考慮をお願いします。

（防災調整監）

避難所には、「指定緊急避難場所」と「指定避難所」の2種類があります。

「指定緊急避難場所」は、災害が発生した時、とにかく命を守るために逃げ込むための施設です。浜坂地区内は、浜坂体育館、浜坂地区公民館、浜坂小学校、中ノ郷中学校などの指定緊急避難場所がありますので、いざという時にはこれらの施設に避難していただくことになります。

「指定避難所」は、災害によって家に戻れなくなった時に、比較的長期に避難生活を送

っていただく施設です。そのため、指定避難所は、地震、水害などのあらゆる災害に対して適応性を有していることが条件になります。浜坂地区内で、全ての災害に適応できる施設は、浜坂小学校のみです。

国土交通省が想定している千年に一度の確率の大雨とは、48時間で508mmの雨量です。浜坂体育館や中ノ郷中学校は浸水エリアにあり、洪水の適用性がないために指定避難所には指定していませんが、その時の状況をしっかり見極めた上で、例えば1階は浸水エリアであっても、2階以上に避難していただくといったことも手段の一つです。これを「垂直避難」といいます。あるいは、指定緊急避難場所にはなっていないくても、例えば県立中央病院に協力を求めるなど、そういったことを日頃からしっかり訓練し、想定していただくことが命を守ることに繋がると思います。

(地元意見)

先日、議員との「トークカフェ」に参加しました。防災の分科会でいろいろな意見が出ました。ある方の会社では、地震や水害、テロなど、災害の種類ごとに避難マニュアルを作成されているとのことでした。分科会では、災害の種類ごとに避難方法も異なるのだから、地域でも、それぞれを想定した訓練が必要ではないかとの声が挙がっていましたし、日中地域にいる方は女性や高齢者が多いから、女性に避難所リーダーになっていただくことも必要ではないかといった意見もありました。

各町内会で防災訓練はありますが、災害の種別ごとではありません。また、誰がリーダーになるかといったこともある程度想定して訓練すれば、混乱を招かないで済むし、皆が一致団結して逃げられると思います。

もう一点、熊本地震の時にも、高齢者や障がい者、小さい子どもさんがおられるなどの理由で長期間避難所にいることが困難な家族が、自動車の中で避難生活を送ったり、自宅に帰ったりされるなど、避難にも様々な形態がありました。どの場合も一番困られたのは、避難緊急物資が届かないことです。指定避難所には物資が届きますが、集落の集会所や自宅でも、ルール化してある程度物資が届くような仕組みづくりをしてはどうかという意見も出ていました。避難生活をスムーズに送るという意味では必要なことだと思いますので、検討をお願いします。

(防災調整監)

災害の種別ごとに避難マニュアルが必要ではないかのご提案でした。それぞれの地域で計画を作成されることは大事だと思います。市役所危機管理課には防災コーディネーターを配置しており、お声をかけていただければ、地域が計画やマニュアル等を作成される際にお手伝いします。

災害は、広域的に発生すると考えておかなければいけません。発災直後には、地域の皆様に施設を開け、避難所運営を始めさせていただくことがとても大切です。発災直後の活動については、ぜひ地域の皆様の支援をいただきたいと思います。そういう時のリーダーを育てさせていただくことについても、市として支援していきたいと思えます。

市が指定している避難所以外の地元の集会所等に避難された場合でも、市としてしっかり支援を行います。ただし大きな災害の場合、第一義的には、指定緊急避難場所や指定避

難場所に届けることになると思います。そこから集会所まで、地域の皆様のお力を借りて物資を運んでいただくなどの行政と地域の連携は、大変重要です。

災害時には、自分の命を守る「自助」、地域が支え合う「共助」の力が大きな要となります。ご協力いただければ市も必ず支援しますので、よろしくお願いします。

(深澤市長)

まず自分の身を自分で守るために避難行動を速やかにとっていただく「自助」、近隣の方同士で支え合い助け合っていただく「共助」いう基本動作を日頃から思い起こしていただき、いざという時に行動していただけることが肝要だと思います。また、防災訓練等を地域単位で実施していただくことが、地域防災力の向上につながっていくと思います。

まずは、皆様お一人お一人が防災意識を持っていただくことが重要だと思います。

(地元意見)

地域課題で消雪装置の話がありました。今年の雪のシーズンは実行してもらえるものと信じていますが、一方で、去年までの経験から、行政と交通機関との連携が取れていないのではないかと感じています。昨年は大雪に見舞われましたが、日本交通は雪が降るずっと前に「この期間は坂の上には上がらない」と地域住民に通知してきました。実際に大雪が降ったのは、そのずっと後です。

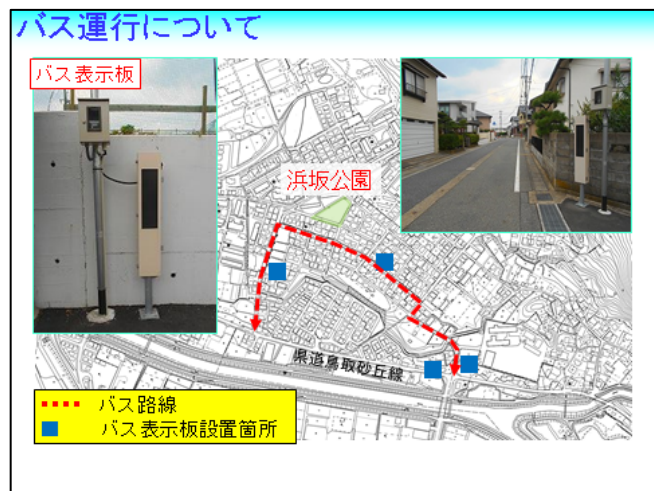
今シーズンは消雪作業を実行した上で、日本交通との連携も十分とってください。上がれない時はやむを得ないとして、上がれる時には上がってくださいと指導してください。

(都市整備部長)

昨年までは、安全上の面から、12月から3月までの間、運行ルートの変更を行ってきました。今年の初めからは、基本的には上のルートを行いますが、危険な場合のみ随時、臨時的にルート変更を行うという運用を行っています。

その場合には、団地内4か所に設置した電光掲示の「バス表示板」で、ルート変更をお知らせします。第1便の運転手が上のルートの走行が可能かどうか確認し、走行が危険だと判断した場合にはルートを変更し、この「バス表示板」でお知らせすることになります。この取り組みは、すでに本年初めの大雪の後半あたりから始めています。

今年の冬は、消雪と機械除雪に精一杯取り組みますが、万が一、上のルートの走行が危険な場合は、「バス表示板」も活用しながら安全なルートを運行したいと考えています。



6 市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。限られた時間の中、大変熱心にご意見やご質問、ご

提言をいただいたことに、まずもって心から感謝申し上げます。

最後に都市整備部長が、消雪と機械除雪にしっかり取り組むと力強く言ってくれました。雪が降っても安心して通行していただけるよう、我々も精一杯努めたいと思います。

また、防災について多くのご意見、ご提言をいただきました。我々も、引き続きしっかり取り組んでいきたいと思っておりますが、まずもって皆様お一人お一人が、地震等の災害が発生した場合には、まず我が身を守る行動を取っていただくこと、そしてお互い助け合い支え合っていくことが大切であると、改めてご認識いただきたいと思っております。本市では、地域の防災リーダー養成にも力を入れています。今年も、夏に防災リーダー養成講座を3日間開催し、約100名に受講していただいております。女性にも参加いただいております。防災リーダーは現在約400名おられますが、今後も養成講座を開催し、より多くの皆様にご参加いただきたいと思っております。鳥取市の地域防災力を向上させていく一つの取り組みです。皆様と一緒に、鳥取市が安全安心なまちであるよう、我々も努力していきたいと考えています。

本日は教育長も出席しています。浜坂小学校につきましても、教育委員会とも一緒になって、地域の皆様のご意見をしっかりと伺いながら、こういった形で整備していくのがよいのか検討し、整備して良かったと皆様に感じていただけるよう努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の地域づくり懇談会にご参加いただいたことに重ねて感謝申し上げます、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日はありがとうございました。